

東京新聞 2007年6月3日(日)〔9〕暮らし

# 「わが家のルール」伝えて



自分の子ども時代に携帯電話がなかった今の親にとって、携帯との付き合い方を、わが子にどう教えるかは戸惑うところだ。読者の親たちから寄せられた声を踏まえ、IT(情報技術)教育アドバイザーの尾花紀子さんに助言してもらった。  
(岩岡千景)

四六時中、友達とメール交換…。親の心配の一つは、わが子がそんな「携帯依存症」に陥ることだ。高校一年男子と中学二年女子の親でもある尾花さんは、対策として

—IT教育アドバイザー—

## 尾花紀子さんに聞く

「充電器をリビングに置く」ことを提案する。

「そうすれば親の目の届かない自分の部屋で、深夜に使い過ぎるのを防ぐこともできる」

午後九時や十時以降はメールをしない、など「わが家のルール」を友達に伝える勇気を教えることも勧める。「子どもにきっぱりものを言えない親も多いが、食事中や人と会っているときはメールしないなど、家のルールを最初に決め、時に

「携帯の使い方を子どもと一緒に考えよう」と話す尾花紀子さん＝東京都渋谷区で



は毅然とした態度で子どもに教えて」

また、メールやネット掲示板で悪口を書かない、知らない人(メル友)に会わない、などは基本ルール。名前や電話番号、写真など個人の情報の漏えい防止についても注意が必要だ。その際、「子どもが意外に個人

人情報と意識しないのがメールアドレスと言つ

名前やアドレスを送り、会員登録するサービスが飲食店などで増加。食べ物などの「無料プレゼント」に誘われて登録する子どもも多いが、「個人情報提供している」と認識させることが大事。友達とのアドレス交換

## 充電器はリビングに

## 明細書 親がチェック

でも、友達から友達に伝わり、いじめに利用されないとも限らない。「むやみに教えず、教えるときも他人に知らせないようお願いする原則をきちんと知らせてほしい」利用料金はつい、高額になりがちだ。一万円を超えたら解約など取り決めるだけでなく、「通話相手や利用状況が分かる明細書を発行する契約にし、親がチェックすることを約束させる」。

明細書があれば、高額な理由がサイト閲覧画像や音楽のダウンロードか、長電話なのかを把握でき、気を付けられる。家庭ではなるべく家の電話を使ったり、外で会って話をする交流を心がけることも教えたい。「頭ごなしにダメと言っても子どもは反発するだけ。使い方を一緒に考え、何かあれば大人に相談するよう環境をつくっていくことが大切です」(おわり)

親から寄せられた声の一部を紹介。

○…「この間まで高3だった娘も携帯依存症といえるほど。食事中も入浴時も手放せ

### 8万円の請求書／娘のアドレス流出

ない状態で生活している。今年から社会人となり、自分で支払うことにしたが、支払えるか心配」(母親)

○…「8万円の請求書が来た。原因は中1の息子のバケ

ット利用。知らないうちにやっていたようで、支払いに困っている」(43歳 父親)

○…「1カ月の請求が3万円。子どもに聞くと音楽のダウンロード。そんなにも料金がかかることを、親の私が使ったことがなく知らなかった。塾から帰る連絡や友人と出かけた時の様子を聞くためだけ、と思っていたのに」

(母親) ○…「チェーンメールを送ってきた友人が一斉送信し、全く知らない子にも娘のアドレスを送信している。子ども間の一斉送信はアドレスが漏れ、トラブルの原因になると思う」(41歳 母親) ○…「この春、高校に入った娘の中学では、テスト中によく着信音が鳴り響き、授業中にゲームをしていた子もいたそうです」(母親)